

🕒 タイミングを取りながら順次ファイルを開いていく ドキュメント・スターター

機能

- 登録したドキュメントを順次起動していく。ドキュメントには一般データファイル、実行ファイルのほか、フォルダも含む。
- 一般データやフォルダを開く場合、起動するソフトを指定できる。無指定の場合はウィンドウズ標準のソフトで開く。
- 起動までの遅延時間を設け、タイミングを計ることができる。前行のプロセスが終わるまで待つことも可能。
- 登録したドキュメントは DocStarterCS 定義ファイル(拡張子=dsta)として保存できる。

用途

- ウィンドウズ立ち上げ時のスタートアップツールとして プログラムの起動順番とタイミングを制御できる。
- タイマーソフトでプログラム起動は一般的だが、大体は1個に限定されている
- 各種のプログラム起動ソフトで複数のプログラムを起動する
  - TimerA などタイマーソフトでの複数プログラムを一括起動
  - DocLaunCS での複数プログラムを順次起動
- ドキュメントのバックアップ・コピーなど、一括処理や定型処理をワンセット単位で行う。

(0)DocStarterCS ドック・スターター

メイン画面



起動書式

- <DocStarterCS 定義ファイルパス名> ⚠️ パス名を指定する場合は「"」ダブルコーテーションでくるようにしてください。
- /g 自動スタート 起動されるとオペレータからの開始を待たず即、登録ドキュメントの順次起動を開始します。
- /e または /e=<遅延時間> 自動終了 順次起動が終了すると、<遅延時間>(単位1/10秒)後に、DocStarterCS も終了。
- /m 起動時 最小化画面 特に自動スタートが指定されているとき画面表示の煩雑を避ける。
- /psx=<左位置> /psy=<上位置> 画面の左上位置指定  
 最大値 モニターサイズ - 32  
 0以下もしくは最大値を越えたものは無視 ... 前回終了時の位置になる
- /szw=<幅> /szh=<高さ> 画面サイズ指定  
 最小値 幅=455 高さ=250  
 最大値 モニターサイズ  
 最小値より小さい指定は最小値。  
 最大値を越えたものは最大値にセット

ドキュメントを単に登録するだけならメイン画面のドキュメント一覧領域にエクスプローラなどからドキュメントをドラッグ&ドロップだけで済みます。

動作を詳細に指示するには「ドキュメントアイテムの追加編集」画面を開きます。

ドキュメントの登録

- 新規の登録: メニュー「設定」-「ドキュメントの追加」
- 編集・修正: 修正ドキュメントを選んで...メニュー「設定」-「ドキュメント編集」

下の画面は、フォルダ「VS2005」をエクスプローラで開くための設定例です。

大体の画面構成は中央から上段がドキュメントの登録用です。下段はそのドキュメントを開くためのツール(プログラムソフト)の登録用です。



通常、フォルダはエクスプローラに関連付けられているはずなので、単にフォルダを開くためだけでしたら、下段のツールの設定は必要ありません。

ツールを設定が必要なときは、ウィンドウ標準の関連付けで開きたくないときと、パラメータスイッチを使いたいときです。

例では、/e, のスイッチを使っています。このスイッチの無いときのエクスプローラはフォルダツリーがない状態で起動されます。いわゆる「マイコンピュータ」の画面です。あればフォルダツリーのあるエクスプローラとして起動されます。

- %1 と %2: "%1" はエクスプローラが実行されるときにドキュメントパス名と置き換わります。
- %2 はドキュメントを2個必要とするときのものでファイルのコピーなどで、コピー元、コピー先を指定するときに使用します。

お試し起動: お試し起動のときのスイッチの設定は本番のツールスイッチを使用せず、お試し専用スイッチを使います。スイッチはドキュメントではなくツールに付属しています。「ツール使用フラグ」がセットされていないときはお試し起動もツールのプログラムではなくウィンドウ標準で動作します。

実行許可フラグ: このフラグはメイン画面からも簡単にオン/オフが可能。順次起動の本番実行のとき一時的に実行させたくないときにオフにする。また、オン/オフにかかわらず「お試し起動」は実行できます。

(1)操作概略

登録ドキュメント例